

区長所信表明

項目

- 1 はじめに
- 2 経済対策について
- 3 国立西洋美術館の世界遺産登録について
- 4 子育てについて
- 5 補正予算について

一般質問

6月10日の本会議において、区長・教育長に対し、各会派の代表7名による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

台東区議会自由民主党

い す み ひろ し

和泉浩司

新型インフルエンザ対策について

問 国や都との連携について、情報の伝達は的確かつ迅速に行われたのか。必要な情報が適切な時期に届いたのか。**答** 迅速に情報の伝達がされましたが、一部、検疫所からの伝達が遅れるなど、課題があったと考えます。

問 区では、実務的に有効な体制がとられたのか。医師会との連携体制と併せて何う。**答** 正確な情報提供や、予防方法の周知などを実施し、発生段階に応じた方針を定めました。医療機関とは、都の感染症例の早期発見システムの周知や、協力依頼などの連携を図ったところです。

問 心配される秋以降の第2波に対してどのような対策を講じていくのか。今回の対応でどのような課題があったと認識し、解決していくのか。**答** ウイルスの毒性の変化の把握、感染拡大の防止、急速に増加する感染者の医療機関での受け入れや、職場での人員確保が課題になると考えます。

問 今回の経験を踏まえた、より実効性のあるマニュアル作りや実践的訓練、区民への啓発活動が必要ではないか。**答** 今後、国や都の方針を踏まえながら、ウイルスの毒性の変化にも対応できるマニュアルを策定し、実践的な訓練や区民への周知を図っていきます。

東京スカイツリー完成に向けた街づくりについて

問 東京スカイツリー開業に向け、多くのお客を迎えるための体制作りや、交通アクセスなどの基本的な課題と区長の所見を何う。**答** 浅草・上野と東京スカイツリーとの間の回遊性強化のための交通システムの整備や、

浅草文化観光センター建替えや新仲見世商店街のアーケード整備などのにぎわいの創出、親水テラスの延伸、水上バス乗場の建替え、隅田公園整備などの水辺の活性化、水辺沿いの空間整備を進めます。東京スカイツリー開業の折には、浅草地域まちづくり総合ビジョンの事業を積極的に推進し、多くの観光客をおもてなしの心でお迎えし、再び台東区を訪れていただけるよう努力していきます。

問 新仲見世商店街のアーケード改築にあわせ、安全な通行と、浅草の回遊性向上の観点からも馬道通りの電線類地中化を行ってはどうか。**答** 電線類地中化や歩道の拡幅の実施に向け、整備手法の検討を重ねていくとともに、浅草地域まちづくりのプロジェクトの中で協議を進めます。

問 今戸・橋場地区の住宅整備について、今までどのような調査検討が行われてきたのか。また、どのような理由で整備が遅れているのか。**答** 区有地を活用した住宅を中心とする地域の拠点整備に向けた調査を行うとともに、公的機関や民間事業者の協力を得ながら検討してきましたが、景気後退や事業採算上の課題を背景に進まない状況となっています。

問 待乳保育園、今戸社会教育館及び今戸住宅の維持保全は、どのように行われ、今後どのようにするのか。今戸住宅は、60年間の期限で地上権を分譲したと聞いているが、この期間が終了した場合、居住者の権利はどのようになるのか。**答** 区所有部分と民間所有部分が存在し、両者が協力しつつ改修を行ってきました。今後、民間部分所有者との連携を図りつつ、建物全体の維持保全を行います。今戸住宅居住者の権利は、借地借家法及び旧借地法の規定に基づき、建物がある場合に限り、契約を更新する必要があると考えます。

問 今戸・橋場地区の住宅整備用地と南側の民間敷地などをあわせた一体的な整備について、どのように考えているのか。**答** 現在、区有地は公共施設として活用しています。民有地については地権者の意向、合意形成の状況、事業の採算性、ニーズなどの状況の推移や社会状況を見極め、総合的見地から検討を進めます。

台東区議会区民クラブ

ふじ ひら かず お

藤平一雄

歳入について

問 喫煙をめぐる環境は年々厳しくなっているが、特別区たばこ税は、区の貴重な自主財源であり、様々な施策を実施するために大きな役割を果たしている。たばこ税を特定財源化して用途を明確にするなど、たばこ税の重要性を区民にPRすべきと考えるがどうか。**答** 特別区たばこ税は地方税法に基づいて普通税として徴収されていることから、特定財源化は困難と認識しています。引き続き、たばこ税の重要性の周知に努めます。

問 たばこ税確保の対策として、購買意欲を刺激するようなデザインの記念たばこ等の販売は有効と考える。JTに記念たばこなどの製造を強く働きかけていくべきではないか。**答** 再三、JTに要望してきましたが、パッケージ表記の規制などにより、記念たばこは作成しないとの回答をいただいています。今後も引き続き、議員ご提案の趣旨も踏まえながら、た

ばこ税の確保に努めます。

問 いわゆる「ふるさと納税制度」を活用し、区内に勤務している方に対して、区に寄附をしていただく方策を検討してはどうか。**答** 区内在勤の方にも台東区を応援していただけるよう、区の魅力をより一層PRしていくとともに、区の窓口で足を運ばずにすむよう、納付書を活用するなど、寄附のしやすい仕組みづくりを検討します。

吉原地区のまちづくりについて

問 吉原地区は、花魁に代表される江戸時代からの文化を背景に、全国でも稀な特色を持った地域となっている。また、売春防止法が制定され、この地区の性格が大きく変わってから本年度50年が経過し、吉原文化を伝える場所は見当たらなくなった。文化的な背景と国の政策によって左右されてきた歴史を踏まえ、区全体、国全体の視点を持って、まちづくりに取り組む必要がある。区長は、例えば、この地区の実態調査を行うなど、まちづくりの方向性を具体的に示す必要があると考えるが、所見を何う。**答** 歴史や文化等の特性を継承し、育んでいくためには、住民主体のまちづくりが最も重要です。地域の皆様が進めるまちづくりに対して、様々な支援を行っていきます。

台東区議会公明党

すぎ やま まさ よし

杉山全良

ヒブ (H i b) ワクチン接種の助成制度創設について

問 昨年末から、日本でも*ヒブワクチンが導入され接種できるようになった。東京都は、この4月から、接種費用の助成を行う区市町村に対して、事業費の2分の1を補助することとし、既に助成を行っている区市や導入予定の区もある。このような状況を踏まえ、本区でも早急にこの助成制度を創設し、より安心して子育てできる環境をつくるべきと考えるが、どうか。**答** ヒブによる細菌性髄膜炎は、乳幼児が発症すると重篤な後遺症を残す場合があるため、ワクチンによる予防は大変重要であると認識しています。ヒブワクチンによる細菌性髄膜炎の罹患率減少の効果は海外では認められていますが、日本では、薬事法に基づく承認がされて間もないため、国は、さらにデータを蓄積する必要があることから、定期接種化した場合の安全性と効果について、現在、専門家による検討を進めていると聞いています。助成

制度の創設に関しては、国内におけるデータの蓄積と分析結果を踏まえ、早急に検討していきます。

*ヒブ (Hib=Haemophilus Influenzae Type bの略。髄膜炎を起こす細菌の一種。)

ポイント制度による介護支援ボランティア活動について

問 本格的な高齢化社会を迎える中、多くの高齢者の方々が自らボランティア活動に参加することが介護予防に繋がっている。高齢者が行う介護支援ボランティア活動では、介護保険制度における地域支援事業とその交付金を活用して、活動実績をポイントとして評価し、蓄積したポイントを自身の介護保険料等に充てることができる制度がある。このポイント制度は、区内でも数区で導入されており、全国的に広がっている。そこで、本区における「介護支援ボランティア制度」の導入について何う。**答** 高齢者の方々が、住み慣れた地域で自らボランティア活動を行うことは、地域の支え合いによるまちづくりに繋がる、大変重要なことと認識しています。また、このボランティア活動は、ボランティアを受け入れる側にとって利益があるだけでなく、ボランティアを行う本人にとっても社会参加が促進されるなど、大きな効果が期待されるものです。ポイント制度による介護支援ボランティア活動の導入については、既存のボランティア活動との均衡性などの課題もあり、他自治体の状況も踏まえ、今後検討していきます。